

岩木川芦野堰魚道で岩木川漁業協同組合が6月1日(土)、武田小4年生を招いてヤマメの放流学習会を行いました。

晴天に恵まれたこの日は、4年生児童14人のほか、保護者が参加。関係者のあいさつ後、用意された体長約16～17センチのヤマメ約500匹を、子どもたちは何度も魚道を往復してバケツで1匹ずつ慎重に放流しました。

体験した児童は「12回も運んだ。暴れてて、元気がよかった。早く大きく成長して欲しい」と話していました。

放流後は、学習会として魚道建設に関わった弘前大学農学生命科学部東准教授が「ヤマメは、川で一生過ごすだけでなく、海に出てサクラマスに成長することもある。海に出るのはメスが多い。また、この魚道は、小さい魚だけでなくカニなども通る」とヤマメの生態や魚道の役割を説明しました。

この放流を実施した同組合の塚本壯恆理事は「この川にはたくさんの生き物がいる。みんなできれいにして守っていきたい」と話していました。



## 子どもたちと共に夢を造る

中里小学校3年生  
ヤマメ放流の野外実習



子どもたちと共に夢を造る会が滝ノ沢ふるさと砂防愛ランド内にある砂防ダムで6月13日(木)、中里小3年生児童を招待し、体長7、8センチのヤマメの稚魚約5,000匹を放流しました。

子どもたちや関係者など約60人が参加した放流会は、砂防ダム魚道完成を契機に行われていますが、5回目の今年は「子どもたちと共に夢を

造る会」を組織して実施。昨年に続き、青森県建設業協会北五支部や町建設業協会も協賛しました。

開会式では同会白川勝則代表が「皆さんが放流するヤマメは、この魚道を上ってダムの上にはいきます。今日もダムの上には大きなヤマメがいます。みなさんの放流した稚魚も元気に成長するようお願いを込めて放流してください」とあいさつ。また、関係者がダムの役割やヤマメの生態などを説明した後、放流が行われました。

児童たちはたくさんのヤマメの稚魚が入ったバケツを持ち、ダム上流へ通じる魚道やダム下流に放流していました。

放流を終えた子どもたちは、群れで泳ぐ稚魚をみながら「小っちゃくてかわいい。鳥に食べられないように魚道を上ってほしい」と話していました。

